

一橋大学・経済産業研究所 政策フォーラム 資源エネルギー政策の 焦点と課題

一橋大学・経済産業研究所は、6月4日、「資源エネルギー政策の焦点と課題」を開催。日本のエネルギー政策をリードする論客が一堂に会し、産学官連携と「文理共鳴」の議論から、リスクマネジメントのあり方や新たなベストミックスを含め、今後の政策の課題と展望を探った。

● 開会挨拶 ●

一橋大学長

山内 進氏



性を再認識させた。これに全学的に取り組むため、昨年からは、東大、経産省、産業界の協力を得て「資源エネルギー政策研究プロジェクト」を進めている。国内外で活躍している論客による議論が、今後のエネルギー政策形成に貢献することを祈念している。

● 基調講演 ●

シエール革命とエネルギー安全保障戦略

日本にとってメリット大きい



国際エネルギー機関（IEA）前事務局長
日本エネルギー経済研究所特別顧問
田中 伸男氏

世界のエネルギーの潮流は、「シエール革命」を中心とする。最大の石油・天然ガス産出国

● 講演 ●

電気・ガス事業の構造転換

競争できる環境整備必要



一橋大学大学院
工学研究科教授
山内 弘隆氏

電力に関しては、再生可能エネルギーの拡大とエネルギー効率の向上が大きな柱になっていく。この点、日本は国内で東西の周波数が異なるなど系統網の整備が遅れている。電力市場形成を阻害している。隣国の韓国やロシアとも接続して、規模と効率性を備えた本格的な電力市場を

リアルでポジティブに、「多様性」を基軸とする 新たなベストミックス構築を

エネルギー政策について

「多様性の確保」で再構築



資源エネルギー庁審議官（エネルギー・環境担当）
後藤 収氏

福島原発事故以降、相次ぐ原発停止にともない、代替となる火力発電用の天然ガスや石油などの燃料費が4兆円近くまで増大し、経済的阻害要因にもなっている。現在、「多様性の確保」をキーワードにエネルギー基本計画の見直しが進められている。エネルギーの生産・調達が段階では再生可能エネルギー、安全性が確保された原発、石油・天然ガスによる高効率火力発電など多様なエネルギー源を確保していく。同時によ

エネルギーとしての石炭および石炭火力発電

高効率とクリーンを追求



電源開発相談役
中垣 喜彦氏

福島原発事故を契機に、燃料の豊富な埋蔵、経済性、調達の安定性といった面から、石炭火力発電に二層の期待が寄せられている。石炭火力発電がベース電源として大きな役割を果たしていくために、当社では高効率発電に関する技術開発、環境負荷低減装置の普及、そして人材の育成に一層力を入れて取り組んでいる。高効率でクリーンな石炭火力発電の普及は、日本のエネルギーセキュリティと環境負荷低減を両立し、世界の持続可能な発展に貢献するものと期待している。

今後のエネルギー政策と石油の位置付け

多様な利用形態を生かす



JX日鉱日石エネルギー取締役副社長執行役員
内田 幸雄氏

一次エネルギーの大宗を占める石油は、ガソリン・灯油・軽油・重油などに精製され、動力・熱・発電など多方面でエネルギー源として利用されている。これは、貯蔵・運搬が容易でエネルギー密度が高いという石油の特性によるものである。災害にも強く地域供給拠点を整備できるなど、利便性が高い。また、多様な化学製品などの原料として、現代生活に最も

日本のエネルギー戦略 技術開発と国際展開

世界をリードする技術普及

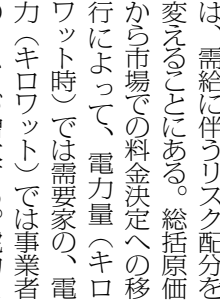


東京工業大学大学院
理工学研究科教授
岡崎 健氏

原発停止によるベース電源減少を補う形で、石炭エネルギーの重要性が高まっている。石炭火力発電はコストが安い上に、日本は微粉炭火力発電などクリーンで高効率、CO₂の排出量も少ない最先端技術で世界をリードしている。この技術を国内で使いつつ、輸出することで途上国へインフラ輸出することは国際貢献上も大きな意義がある。

電力供給についての経済学からの論点

規制と自由化のバランスを



RIETIフェアカルティフェロー
プログラムディレクター
東京大学大学院経済学研究科教授
大橋 弘氏

電力システム改革の要諦は、需給に伴うリスク配分を伴うことにある。総括原価から市場での料金決定への移行によって、電力（キロワット時）では需要家の、電力（キロワット）では事業者のリスクが増大する。電力という財は、需要の変動幅が大きく、貯蔵困難という特殊性があり、通常の商品のような在庫調整機能がない。市場競争が機能する大前提は十分な供給力があることで、他国で

ポジティブな方法論を提起



橋川氏

橋川武郎氏が新たに加わり、原発の出口戦略として、再生可能エネルギー拡大と省エネルギーの促進、火力発電の低コスト・ゼロエミッション化などを通じた「リアルでポジティブな方法論」ともいえる。現実性・総合性・国際性・地域性を視座に据えることが、エネルギーに関する政策面、産業面、技術開発・理論研究の第一人者が一堂に会し、多面的に交わられた議論は、日本のエネルギー政策の進路を考える上で、示唆に富むものとなった。

● パネルディスカッション ●

- （出席者）写真右から
（パネリスト）
一橋大学教授
RIETIフェアカルティフェロー
- 橋川 武郎氏
- 大橋 弘氏
- 岡崎 健氏
- 山内 弘隆氏
- 田中 伸男氏
- 後藤 収氏
- 中垣 喜彦氏
- 内田 幸雄氏
- 村木 茂氏
- （モデレーター）
一橋大学特任教授
RIETIフェアカルティフェロー
- 安藤 晴彦氏

● 開会挨拶 ●

RIETI理事長
中島 厚志氏



本日の議論を聞く中で、エネルギー革命の多くが、産業革命と時期を同じくした歴史をあらためて想起した。エネルギーの変革により、新しい

広告